



追 悼

眞野行生先生を偲んで

眞野行生先生は、平成16年11月7日午前9時56分、享年62歳でご逝去されました。

眞野行生先生は、愛知県名古屋市の出身で、昭和43年名古屋大学医学部を卒業、名古屋大学第一内科の入局を経て、昭和47年より、米国ニューヨーク大学リハビリテーション医学研究所のレジデントおよびペイラー医科大学の神経学部門のレジデント、そして、メリーランド大学神経筋研究所の研究者として留学され、米国のリハビリテーション科専門医のボードも取得されました。その後、昭和53年からは、国立武蔵療養所神経センター（現国立精神・神経センター）の初代理学診療科医長、昭和56年、奈良県立医科大学神経内科学講座助教授、平成7年10月、北海道大学医学部リハビリテーション医学講座の教授に就任され現在に至っております。

北海道大学では、医局も同門会もまったくない新設講座としてリハビリテーション医学講座を立ち上げ、リハビリテーション科外来の設立、40床のリハビリテーション科病棟の開設を果たし、わが国で最大級のリハビリテーション診療施設を作り上げました。

学会等の活動も幅広く、日本リハビリテーション医学会理事、日本神経治療学会理事、日本電気生理運動学会会長、国際電気生理運動学会理事、バイオメカニズム学会理事、日本臨床神経生理学会評議員、日本神経学会評議員、日本介助犬アカデミー副会長などの役職を務めております。

日本臨床環境医学会においては、理事として研究活動と教育・啓蒙に参画されてきました。平成14年7月5～6日には、札幌・北海道大学学術交流会館での第11回総会の大会長を務め、これまでの学会で初めて、新しい臨床研究の視点から「障害者と環境」をテーマとしてシンポジウムを組まれ、多くの研究者や臨床家が参加する環境医学会となったことが特徴的です。この年は、直後の9月6～7日に眞野先生が総大会長として執り行うリハビリテーションケア合同研究大会・札幌2002の準備もあり、事務局を担当していた私は、眞野先生の精力的な活動にようやくついていくのが精一杯でした。

今回のご病状に関しましては、平成15年より腰痛や蛋白尿がみられ、平成15年6月に多発性骨髄腫の診断を受け、当院第3内科での入院加療を受けました。積極的な治療として自家末梢血幹細胞移植を施行されております。闘病中においても、医学研究への情熱は失わず、日本リハビリテーション医学会学術集会和、平成16年6月には日本神経治療学会総会を各々大会長として開催され、過去最大級の盛況を博しております。治療経過は順調であったのですが、平成16年10月の退院後に肺炎を起こされ、11月7日午前9時56分にご逝去されました。

眞野行生先生は、好奇心・探究心が旺盛で、臨床現場においても常に患者様に還元できるような新しい分野の研究に挑戦をされておられました。医学教育には人一倍熱心であり、多くの分野の学会で、いつも他の大学・施設の医師・研究者に取り囲まれ、研究のアドバイスなどをされておられました。

ここに謹んで眞野行生先生のご冥福をお祈り申し上げます。

北海道大学病院 リハビリテーション科
渡 部 一 郎